

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 27 年 10 月 29 日 (2015.10.29)

【公開番号】特開 2011-250441 (P2011-250441A)

【公開日】平成 23 年 12 月 8 日 (2011.12.8)

【年通号数】公開・登録公報 2011-049

【出願番号】特願 2011-148224 (P2011-148224)

【国際特許分類】

H 0 4 J 13/00 (2011.01)

【F I】

H 0 4 J 13/00 1 0 0

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 27 年 9 月 2 日 (2015.9.2)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 5】

スクランブルされたデータはミキサ 14 a 乃至 14 n のバンクに供給される。各ミキサは対応する局部発振器 16 a 乃至 16 n によって駆動される。各ミキサ 14 a 乃至 14 n からのアップ変換されたデータはスイッチ 18 に供給される。好ましい実施例では、第 n 番目の局部発振器 (n^{th} LO) の周波数は $f_0 + N_{10}$ であるので、局部発振器の周波数は均等に分離される。好ましい実施例では、 N_{10} はチップレートまたはチップレートの何倍かであるので、局部発振器の周波数は PN 発生器のチップレートまたはその何倍かによって分離される。スイッチ 18 はどのアップ変換された信号の 1 つが送信器 (T M T R) 20 に接続されるべく準備すべきかを選択する。送信機 20 に供給されるアップコンバートされた信号は制御プロセッサ 22 によって供給された信号に従って選択される。記述された実施例では、制御プロセッサ 22 は疑似ランダム処理に基づいた選択信号を発生する。疑似ランダム処理は、そのようなシーケンスを発生するための周知の技術である多くの方法のいずれか 1 つを使用して発生することができる。例えば、疑似ランダムシーケンスは直線または非直線帰還シフトレジスタによって発生することができる。それは暗号キーストリーム発生器 (cryptographic keystream generator) によっても発生されてもよい。これらどの技術も電子的連続番号 (E S N)、公共キー、(public key) または秘密キーのような、移動局と同一のものを使用できる。これらの技術は周知の技術である。代わりの実施例では、選択信号は第 1 から第 2、第 n までのアップコンバートされた信号の順番選択でありうる。もう 1 つ他の代わりの実施例では、選択された周波数はチャネルの状態に基づいていてもよい。受信システムは各チャネルのパフォーマンスを測定し、その後好ましい周波数を使用のための送信器にフィードバックしてもよい。これはパイロットのように、連続送信される信号をモニタすることによりなされてもよい。選択された信号は送信器 20 に供給され、送信器は信号を濾波して増幅しそしてアンテナ 24 を通して送信のためにそれを供給する。本発明の好ましい実施例において、同様に発生された少なくとも 1 つの他の信号が共に多重化されるであろうことは理解されねばならない。むしろ、このような同様に発生された信号の数はミキサ 14 と局部発振器 16 の組合わせの数と等しくなるであろう。例えば、図 1 に示された実施例の場合には、3 つのこのような信号が多重化され、送信器 20 を通して送信されるであろう。よって、3 つの異なる源からのデータ (そして 3 つの異なるスイッチ 18 から送信器に接続された、その 1 つのみが示されている) は、送信器 20 による送信前に一緒に多重化される。各スイッチ 18 は、ミキサ 14

を選択し、このミキサはお互いにスイッチ 18 によって同時に選択されている信号を発生している他の局部発信器 16 のそれぞれの周波数とは異なる周波数で動作している局部発信器 16 と接続される。